

# 「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【富里中学校】

令和3年5月27日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 生徒が受けた調査について

「国語」，「数学」，「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

## 2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について 〔※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較〕

国語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて，その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数学	学習指導要領第2章第3節数学における，「数と式」，「図形」，「関数」，「資料の活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

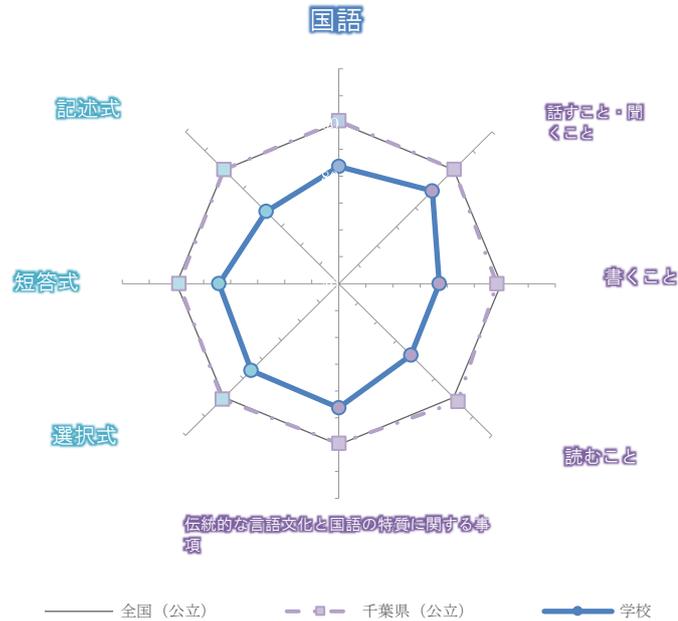
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



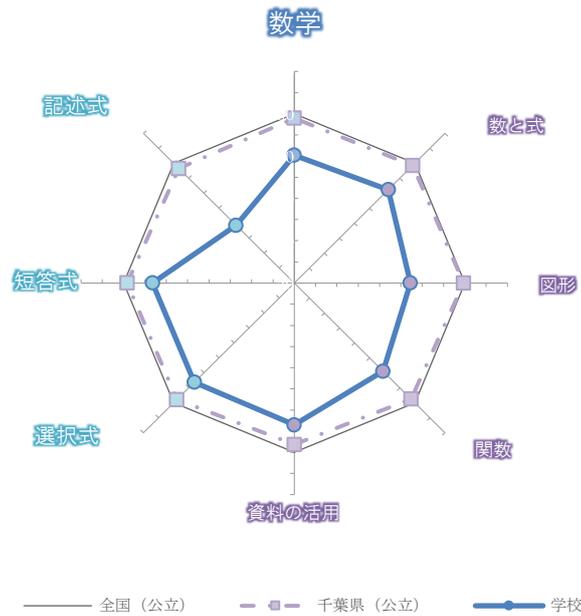
#### 【特徴と現状】

- 今回の全国学力状況調査では、全国平均および県平均の正答率で見ると、どちらも10ポイントほど下回っています。
- 話すこと・聞くことの領域は他の領域に比べ、全国平均との差は小さくなっています。特に「話し合いの話題や方向性を捉える」問題などで全国平均に近い正答率になっています。
- 書くことや読むことの領域では無回答率が全国平均に比べ高い傾向にあります。特に「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」や「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」問題などで顕著に見られます。また、無回答率は低いものの、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」問題では特に苦手とする傾向にあることがわかります。

#### 【改善方策等】

- 記述式の質問に対応するため、基礎的な知識の習得や漢字の小テスト、意味調べなどを系統的に実施していきます。
- 文章の内容を正確に捉える力は備わってきているので、構成や展開の流れなどを意識し、文章の要約にさらに力を入れて取り組んでいきます。
- 「学び合い学習」のなかで、自分の考えを発表する機会を増やし、概要を明確にして伝えたり、書いたりできるように指導します。
- 授業のまとめに、振り返りとして学習した内容を文章でまとめることを継続していきます。

## 数 学



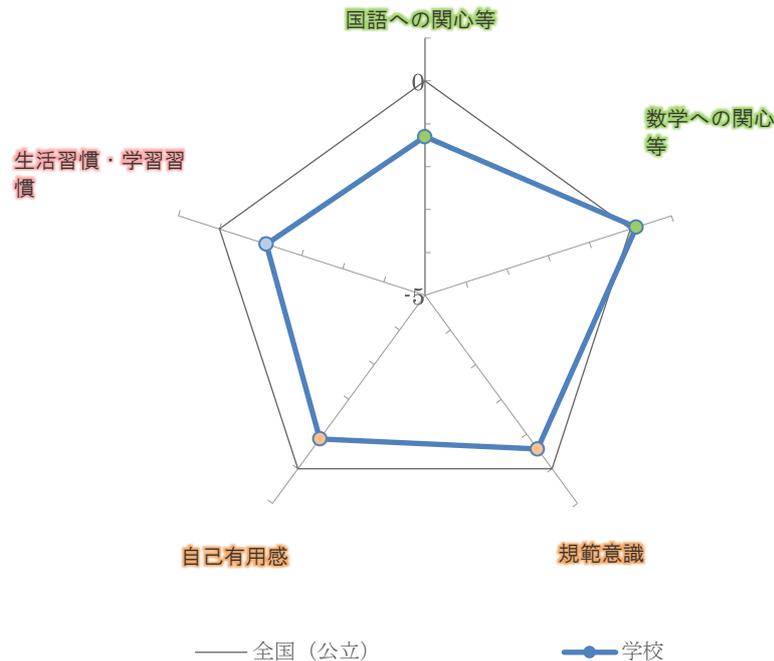
### 【特徴と現状】

- 全体的に全国平均と比べて正答率が10ポイントほど下回っていますが、資料の活用や数と式の領域で全国平均の正答率との差が縮まっています。
- 資料の活用の領域では「与えられたデータから中央値を求めることができる」問題で、全国平均・県平均ともに上回り、理解が深まっている生徒が多くいることがわかります。
- 数と式の領域では、「整数の加法と減法の計算ができる」や「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」で全国平均に近い正答率になっています。
- 記述式の問題形式の正答率が他の形式から見れば正答率が全国平均より低く、苦手としている生徒が多いことがわかります。また、無回答率も高い傾向にあります。

### 【改善方策等】

- 基礎・基本の定着を確実にを行うため、基礎的な計算ドリルを繰り返し行います。
- 学習サポーターや少人数学習の利点を生かし、きめ細かでの確な指導を行い、理解を深めます。
- 記述式に問題を苦手とする傾向があるので、自分の考えを表現する力を養うとともに、周りの考えも聞き、自分の考えを深めることにさらに力を入れて取り組んでいきます。

### (3) 生徒質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 自分の思っていることや感じていることを言葉で表すことができると答えた生徒が75%とほぼ全国平均と同じ傾向にあります。また、友達の話や意見を最後まで聞くことができると答えた生徒も全国平均とほぼ同じでした。
- 数学の勉強が好きと答えた生徒が65%と全国平均・県平均ともに大きく上回り、また数学の勉強は大切で、内容もよく理解していると答えた生徒もともに全国平均を超えています。
- 数学の授業で学習した内容を普段の生活で活用できないか考えている生徒が60%を超え、こちらも全国・県の平均を大きく上回ることがわかります。
- 国語の授業で、自分の考えを話したり質問したりする生徒は、全国平均を下回っています。また、将来役立つと思っている生徒も低い傾向にあることがわかります。

### 3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。話すこと・聞くことの領域では、全国や県の平均には到達できていませんが、比較的得意とする領域であるので、学び合い学習などを通して、話すことや聞くことの力を引き続き伸ばしていく指導を続けていきます。

正答率が高い生徒は以下の問いについて肯定的な回答をしている傾向にあります。

- ・「朝食を毎日食べている」
- ・「自分と違う意見について考えることが楽しい」
- ・「友達と協力することは楽しい」
- ・「自分の思っていることや感じていることを言葉で表すことができる」
- ・「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」

学び合い学習の成果として「思っていることを言葉で表現すること」「自分と違う意見について考えること」「友達と協力すること」「友達と話し合うこと」「友達の話や意見を最後まで聞くこと」を通して学力の向上に結びついていることがわかります。さらに改善、工夫、研究を行い、「主体的で対話的な深い学び」に繋げていければと考えます。